

令和6年度 病害虫防除情報

令和6年10月11日
発表：福島県病害虫防除所

ネギでシロイチモジヨトウによる被害が多く確認されています。
防除対策を徹底し、被害を防ぎましょう！

- 1 対象作物：秋冬ネギ
- 2 病害虫：シロイチモジヨトウ
- 3 対象地域：浜通り
- 4 発生量：やや多い

【発生状況等】

- (1) 1 本年の定期巡回調査において、昨年と比べ早い時期から発生程度の高いほ場が確認されており、10月に入ってから食害及び幼虫の寄生が多く見られている（図1）。
- (2) 浜通り地域に設置しているシロイチモジヨトウのフェロモントラップ調査では、10月に入ってから高い誘殺数を示している（図2）。
- (3) 仙台管区气象台が10月3日に発表した1か月予報では、気温が平年より高く、本種の発生が助長されると考えられる。

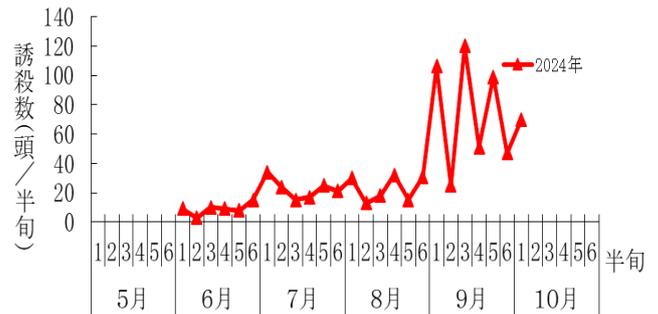
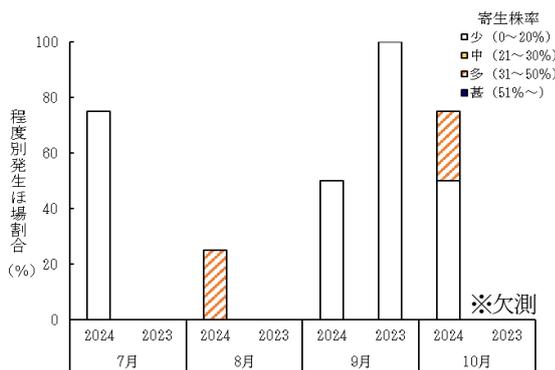


図1 ネギにおけるシロイチモジヨトウ寄生株率

※2023年10月のデータは台風のため欠測。

※2023年は2ほ場、2024年は4ほ場で調査を実施した。

図2 フェロモントラップによるシロイチモジヨトウの誘殺状況

(いわき市平下神谷：秋冬ネギ)

【防除対策】

誘殺数は9月上旬から高い状況が続いており、今後も幼虫による被害が予想されますので、防除対策を徹底して被害を防ぎましょう。

- (1) 本種の幼虫は、広食性で様々な農作物を加害します。これから本県で被害が懸念される作物は、ネギ、トマト、イチゴ、トルコギキョウなどです。
- (2) 本種の成虫は卵塊で産卵し、卵塊の表面に灰色の鱗毛を付けます。ネギでは、幼虫による食害部が表皮を残して白くなるため被害が目立ちます（写真1，2）。
- (3) ネギでは、孵化した幼虫が葉身の内側に食い込んで食害するため、薬剤のみでは防除が困難です。ほ場をよく観察し、被害及び若齢幼虫の早期発見・除去に努めてください。
- (4) 幼虫の齢期が進むと薬剤の効果が悪くなるため、若齢期の防除を心がけてください。また、薬剤抵抗性の発達を防ぐため、同一系統薬剤の連用を避けましょう。
- (5) 残さが発生源となるので、栽培終了後は放置せず、速やかにほ場外に持ち出し処分しましょう。



写真1 シロイチモジヨトウ幼虫



写真2 シロイチモジヨトウ成虫

【シロイチモジヨトウに使用可能な農薬】
 ※令和6年度農作物病虫害防除指針より。

(令和6年度10月7日時点登録内容)

作物名	薬剤名 (商品名)	希釈倍率	使用時期	使用回数	RACコード
ネギ	アフーム乳剤	1,000~2,000倍	収穫7日前まで	3回以内	6
	スピノエース顆粒水和剤	5,000倍	収穫3日前まで	3回以内	5
	トルネードエースDF	1,000倍	収穫14日前まで	2回以内	22
	フェニックス顆粒水和剤	2,000~4,000倍	収穫7日前まで	3回以内	28
	プレオフロアブル	1,000倍	収穫3日前まで	4回以内	UN

●情報内容への質問や要望は、福島県農業総合センター安全農業推進部発生予察課 (病虫害防除所) まで御連絡ください。

TEL 024-958-1709 FAX 024-958-1727